第２回　新県立奈良病院整備検討委員会　概要

１　開催日時　平成２２年１２月２日（木）午後３時００分～４時５０分

２　開催場所　地方職員共済組合　奈良宿泊所　猿沢荘　３階わかくさ

３　出 席 者　【委　員】新県立奈良病院整備検討委員会委員　１１名
　　【事務局】医療政策部新奈良病院建設室

４　議　　題
（１）新病院の医療機能等について　＜資料１＞

（２）新病院の整備場所について　　＜資料２＞

（３）その他　　＜参考資料＞

５　公開・非公開の別
公開　（傍聴者　３名）

＜主な意見＞
（１）新病院の医療機能について
○医療センターの概念からみると、１０～２０年後を見据えた取組が少ないのではないかと思う。ｉＰＳ細胞研究など、研究に対応するセンターなどを持つべきである。どこにも負けない病院をつくることにより、人が集まる。そういう見方が欠けているのではないか。

○北和地域だけではなく、県全体で考える必要がある。例えば、新病院と医大との役割分担を考えることが必要なのではないか。具体的には、最先端医療は中和の医大で行い、新病院は県のがんセンター的な立場など。県全体をみたとき、医大との兼ね合いははずせない。疾患レベルによってどの病院に行くか変わってくると思う。

○教育研究、地域医療との連携、地場産業や県内大学（医大以外も含む）との連携により、多くの患者、スタッフなどが集まる。そのためには、医療だけでなくスタッフの教育や研修を行う施設も必要。がんに特化すると、大阪府等のように需要人口があれば良いが、基礎的なものをしないと奈良県では難しい。

○県内の受診行動を十分に理解し、北和と中南和にマグネットホスピタルを設置するという考え方の方向で良いのではないか。がんセンターなど限定的なものでなく、「新しい」「重要」など、幾つかの分野に重点化したもので良いのではないか。

（２）新病院の整備場所について
○医大での現地建替を経験した立場で見ると、入院患者や手術など日々の診療への影響があまりに大きい。現場の意見として、現地建替で工事期間が８年もかかるのは振動や埃などの問題があり、工事を行いながら診療を続けることは患者への影響が大きすぎる。

○工事期間中の問題もあるが、使い易い病院を造らないと意味がないので、現地建替は敷地面積から見て難しい。８年も工事を続けることは、患者や医療スタッフなど現場の大きな負担となる。

○比較検討資料は六条山地区が良いように書いてあるが、必ずしもそうではない部分もある。本棟が工事の支障とならないのであれば、工事期間の短縮は可能と思う。

○県立奈良病院に研修医を含め医師を引きつけることは喫緊の課題である。工事期間が８年半と４年では大きな違いがあり、現地建替の工事に８年半を要することは、今の医療状況から危機的である。看護学校も大きな問題である。

○どこに病院を造るかは、病院のコンセプトと関連する。医師の確保のためには診療を行いながらの工事はスタッフの志気の低下や離職につながり大きなデメリットとなる。